

東奥日報

2024年(令和6年)3月12日(火曜日) (16)

最先端技術 触れて成長



報告会に出席した(左から)岡本さん、瓜田さん、新田さん、立花さん

米家電IT見本市派遣プロジェクト

ハ
P

1月に米ラスベガスで開かれた世界最大級の家電IT見本市「CES」

に、県内IT企業が県内の学生2人を派遣したプロジェクトの報告会が9日、八戸市番町のワークショップカフェ「エスタシオン」で開かれた。学生2人は最先端の自動車や、人工知能(AI)の搭載が当たり前となった家電など、最新の技術や現地の様子を説明した。

(三好陽介)

学生2人が視察報告

同プロジェクトはアイティコワーク(八戸市)取締役の岡本信也さん(45)とヘプタゴン(三沢市)代表取締役の立花拓也さん(39)が企画。趣旨に賛同した県内企業14社の支援を得て、八戸工業大学4年の瓜田壮一郎さん(22)、八戸工業高等専門学校専攻科1年の新田彩奈さん(21)を派遣した。

瓜田さんは、下着に埋め込まれたセンサーで体温などを測定し、AIで健康をアドバイスできる製品を紹介。「介護現場でも使えると思った」と述べ、「自分の英語力不足を実感した。もっと英語の勉強を頑張りたい」と抱負を語った。

中学生向けプログラミング教材を研究している新田さんは「人に優しい技術が多く、コミュニケーションが苦手な中学生に活用できると感じた。海外では多くの大学が企業とタイアップしながら出展していたことも印象的」と語った。

プロジェクトは2019年に始め、今回は4年ぶりに行った。取材に岡本さんは「学生2人は派遣を通じて成長した。今回の経験を生かして今後さらに飛躍してほしい」と期待した。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」